

施策評価シート(令和元年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (8)自然との共生

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

基本施策が目指す姿

豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	自然公園の利用者数	人	13,717	H27	10,520	8,465	9,154			20,000
2	環境林整備面積	ha	1,187	H27	1,382	1,451	1,531			1,700
3										
4										
5										

市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	自然環境が豊かである	重要度	1.27	1.19	自然に関する各項目に対する重要度の認識は若干下降してはいるものの、市民の意識は依然として高いものと思われる。また、自然環境に対する満足度は上昇しているものの、市域での開発の進行や森林・農地の荒廃などを懸念する市民の様子が窺える。
		満足度	1.03	1.10	
2	自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.13	0.95	
		満足度	0.17	0.22	
3	森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.11	0.99	
		満足度	0.04	0.11	
4	自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	1.04	0.90	
		満足度	0.27	0.25	
5		重要度			
		満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	多様な主体と連携・協力し、鈴鹿川等源流域や里山公園、森林公園等をフィールドとしたイベント等の実施を通して、市民が自然環境に触れる機会や自然資源の保全に努めるとともに、多様な生態系の確保に向け、市民活動団体と連携し水生生物調査の取組を行った。しかし、成果指標における自然公園の利用者数は前年度に比べ増加したものの、目標値には大きく乖離している。一方で、森林・里山・農地の保全に関しては、森林環境創造事業の実施による環境林整備面積は、成果指標目標値1,700haに対し1,531haの整備が完了し、順調に進んでいる。しかし、農地の多面的機能発揮促進事業では、前年度と比べ活動組織数、活動面積とも減少しており、中山間地域直接支払交付金事業実績も横ばい傾向であることから、総合判定をBとした。
反省点・課題	
森林の有する公益的機能を維持・発揮するためには、環境林整備区域の拡大を図る必要があるが、整備に係る国・県の交付金等は年々減少しており、また、県の方針により令和13年度をもって森林環境創造事業は終了予定であり、それ以降の方針が示されていない。一方で、農地の保全については、国の交付金事業を活用し、農地の持つ多面的機能の維持・発揮促進に努めているが、農業者の高齢化が進むとともに、担い手不足や収益性の低下などから、活動組織数及び活動面積の増加がみられず、中山間地域における農地の荒廃化が進んでいる。多様な生態系の確保については、生物多様性に関する取組を進めてきたが、「生物多様性」という言葉や考え方が広く市民に知られていないと言えないため、まずは「生物多様性」について幅広い世代に理解してもらい、その重要性を感じてもらう必要がある。	

今後の展開方針

森林の保全については、管理の行き届かない森林の適切な管理と環境林整備区域の拡大に資するため、森林環境譲与税を財源とする森林経営管理事業を積極的に展開する。また、機会を捉えて国・県に対して予算確保や関連事業の継続を要望するとともに、並行して市単独事業による環境林の整備を進める。一方、農地の保全については、耕作放棄地の発生防止と農業・農村が有する多面的機能を維持・発揮していくため、地域への積極的な働きかけに努め、農地・水路・農道などの地域資源を保全する活動の拡大に向け支援を行う。また、多様な生態系の確保については、「生物多様性地域戦略」の策定を進めるとともに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や市民活動団体、三重大学等の多様な主体と連携・協力し、生物多様性を知る・感じてもらう取組を展開し、その重要性に対する市民意識の醸成に努める。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		自然資源の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	環境保全条例等の関係法令に基づき、環境と調和した開発行為を誘導した。 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による「鈴鹿川等源流の森林づくり構想」の作成に参画するとともに、多様な主体と連携・協力し、関連事業を実施した。		協議会主催の関連イベントを実施し、源流域の自然環境に触れる機会を創出したことで、来訪者が増加し、源流域における自然資源の保全及び活用への意識醸成に努めることができている。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果
	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会における事業実施と「鈴鹿川等源流の森林づくり構想」作成への参画					A	A

施策の方向		森林・里山・農地の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	森林の持つ公益的機能の向上を図るため、環境林80haの間伐を行った。また、森林経営管理事業では、適切な森林管理が困難な森林所有者に管理の意向調査を行い事業を進めた。また、多面的機能発揮促進事業では14組織391ha、中山間地域直接支払交付金事業では13団体88ha、田園環境保全事業では7件14haの景観作物で農地の保全に努めた。		環境林整備計画に基づく森林環境創造事業の実施、森林経営管理事業を進めたことで、森林の持つ公益的機能の発揮に加え林業経営の安定化、持続的発展の推進に寄与することができている。一方で農地施策については、地域や水利組合等の団体へ支援制度活用を促進するため、説明会や働きかけを行っているが、活動組織、活動面積が減少傾向にある。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17030	森林環境創造事業		主	17,231 / 16,997	B	B
	17031	中山間地域等直接支払交付金事業		主	14,619 / 14,619	A	A
	17032	田園環境保全事業		主	3,800 / 3,753	A	A
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		主	3,487 / 3,465	A	B
	17034	多面的機能発揮促進事業		主	14,300 / 14,150	B	B
	19008	森林経営管理事業		主	12,600 / 12,562	A	A
	12008	森林環境整備基金積立金		標	943 / 896	A	A
事業以外の取組	6019	市単土地改良事業		標	49,706 / 45,950	A	A
	内容					活動	成果

施策の方向		自然とのふれあいの機会の創出					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山里山公園や亀山森林公園等を活用したイベント等の開催や里山塾の開講、「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」主催の関連イベント等により、市民が身近に自然と触れ合う機会を提供した。 また、自然保護団体等の活動を支援するとともに協働して市民が自然環境を保全することの理解やその大切さを学ぶ機会を提供した。		自然公園を活用したイベントや協議会の取組を通じて、自然環境を保全することの理解やその大切さを学ぶ機会を創出し、市民の環境保全意識の高揚に繋げることができている。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4067	里山公園管理費		標	5,124 / 4,731	A	B
事業以外の取組	6055	森林公園管理費		標	3,655 / 3,632	A	B
	内容					活動	成果

施策の方向		多様な生態系の確保					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B まずはまず進んでいる	活動	「市生物多様性地域戦略」を令和2年度において策定すべく、中間案の調整を行った。また、市民活動団体と連携し、鈴鹿川等源流域をはじめとする市内河川における水生生物調査を行い、生息状況の把握と公表に努めた。一方、外来魚や特定外来生物(アライグマ等)の駆除に取り組む市民及び市民団体に必要な資材を提供するなど活動の支援を行った。	評価	「市生物多様性地域戦略」を策定することで、多種多様な生き物の保全及び持続可能な利用を推進する基盤づくりに努めている。 また、水生生物調査及び外来魚等の駆除を通して、多様な生態系の保全に対する市民意識の向上に寄与することができている。			
				関連事業	番号	事務事業の名称	区分
		6009-2	有害鳥獣対策事業(駆除)	標	16 / 16	A	A
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果